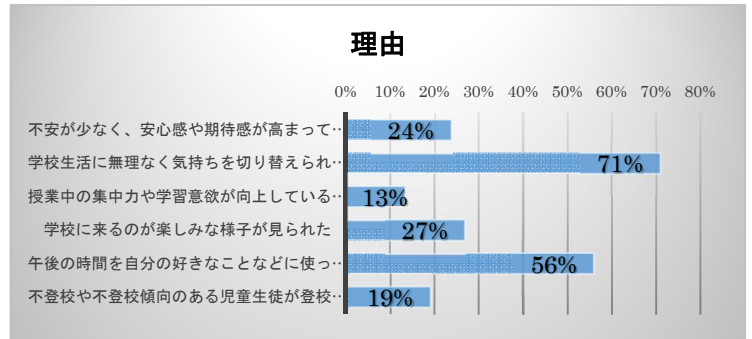
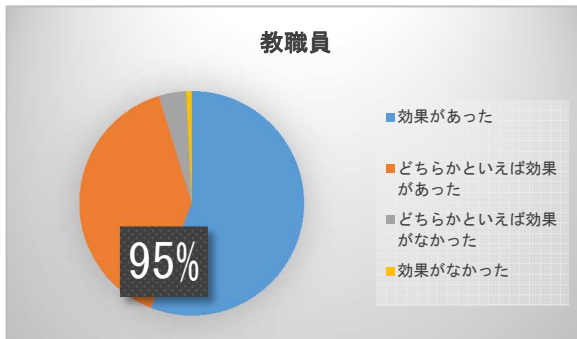
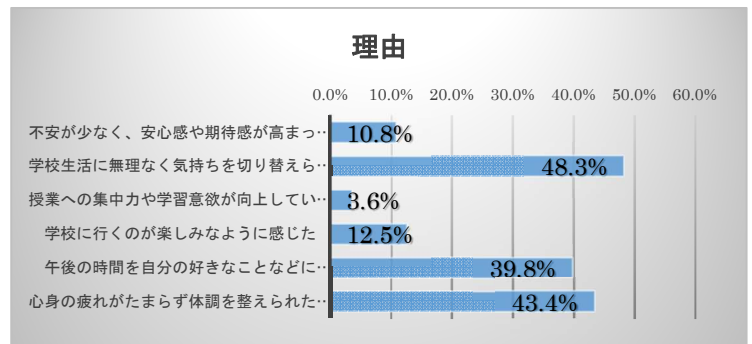
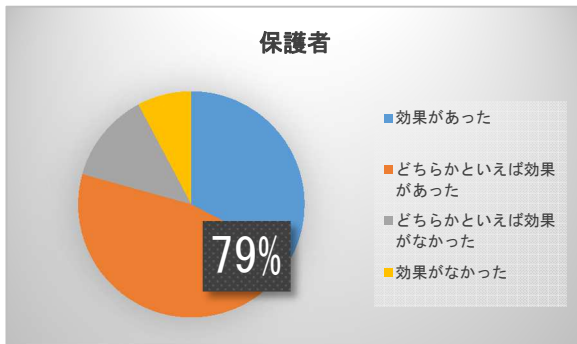
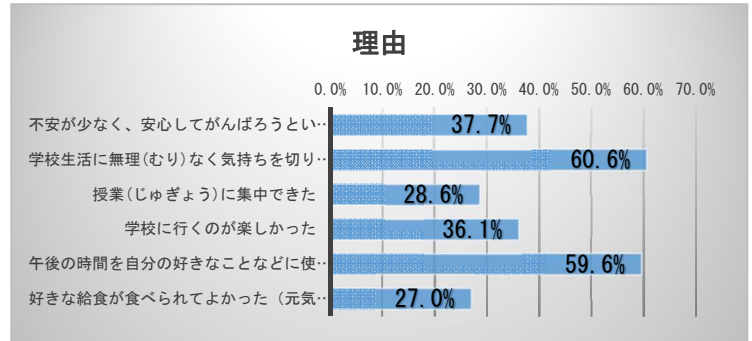
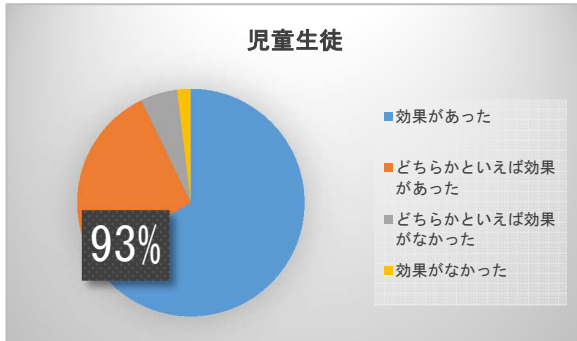


「ゆるやかスタート・ウィーク」について

1 アンケート結果の概要

児童生徒、教職員、保護者へのアンケート結果から、児童生徒の心身の負担軽減と教職員の業務改善において高い効果が認められたことが分かります。一方で、児童生徒の午後の時間の有効活用及び居場所の確保、実施期間や時間割、学校や児童生徒の状況に応じた柔軟な対応が課題として挙げられています。

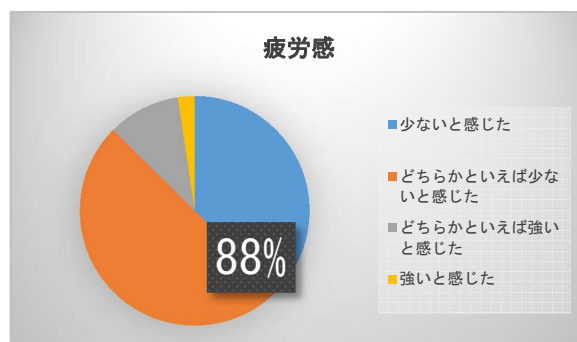
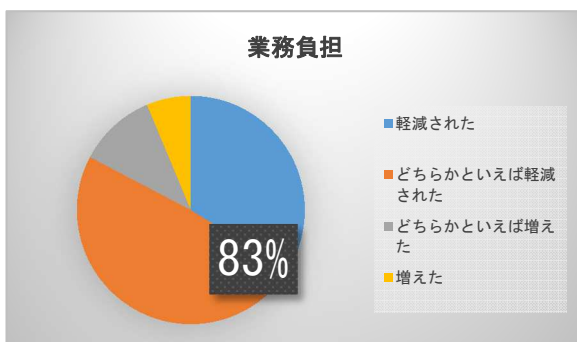
(1) ゆるやかスタート・ウィークの効果



【ポイント！】

児童生徒と教職員の9割以上と保護者の約8割が効果を肯定的に捉えており、特に登校への心理的なハードルを下げる効果は極めて高いものと考えられます。なお、児童生徒の96.1%が、冬休み明けや来年度の夏休み明けも実施したいと回答しています。

(2) 教職員の業務負担と疲労感



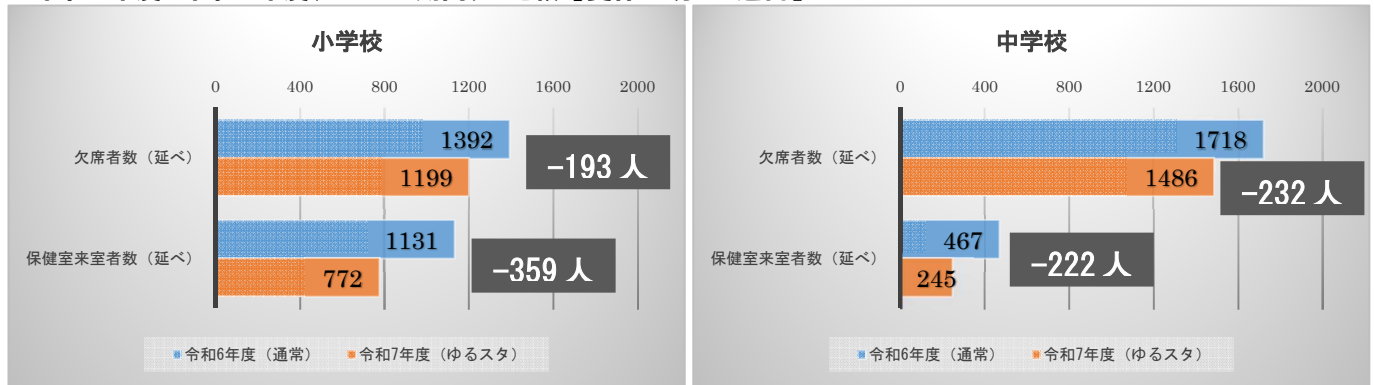
【ポイント！】

教職員自身の精神的なゆとりと業務の質の向上（教材研究・個別対応）に寄与し、働き方改革の観点からも成果があったと考えられます。

2 欠席者数及び保健室来室者数の概要

欠席者数および保健室来室者数のデータ比較から、「ゆるやかスタート・ウィーク」が長期休業明けのリスク低減に大きな効果があったことが明確に示されました。

令和6年度と令和7年度(ゆるスタ期間)の比較【夏休み明け1週目】



【ポイント】

ゆるスタの実施により、夏休み明けの欠席者数、保健室来室者数ともに大きく減少しました。特に、保健室来室者数は3分の1以上減っており、児童生徒の心身の不調予防に極めて有効であったことが示されました。

3 学校における成果と課題

児童生徒に心身の負担軽減、教職員に心のゆとりと定時退勤の増、個別指導など教育の質の向上という成果をもたらした一方で、授業時数確保と効果を持続させるための取組、児童生徒の午後の居場所づくりが、ゆるスタを持続可能な取組にする上で課題となりそうです。

(1) 成果

- 心のケアと登校支援の実現
- 教職員の協働と準備の充実
- ワーク・ライフ・バランスの充実
- 給食の提供（元気モリモリウィーク）への高い評価

(2) 課題

- 授業時数の確保
- 効果を持続させるための取組の工夫
- 趣旨を踏まえた業務内容の精査
- 保護者負担への配慮

4 市PTA連合会及び市小・中学校長会からの意見

10月28日(火)に実施した、市PTA連合会と市小・中学校長会との意見交換会においては、児童生徒の心身の負担軽減と教職員の業務改善に関する肯定的な意見やよりよい取組にするための建設的な意見、今後も継続して実施してほしいという要望がありました。

(1) 市PTA連合会

- 冬休み明けはもちろん、来年度以降も継続して実施してもらいたい
- より段階的に学校生活に慣れることができるよう、活動内容や授業時間等を工夫してもらいたい
- 放課後児童会等との情報共有を丁寧に行ってもらいたい

(2) 市小・中学校長会

- 児童生徒にとって、負担や不安の軽減につながった
- 休み明けの教育活動を見直すよい機会になった
- 初めての取組で改善すべき点もあったが、より良い取組になるようにみんなで考えていきたい

5 冬休み明けの「ゆるやかスタート・ウィーク」の概要

冬休み明けの時期は、心身の不調を訴える児童生徒が増えるとともに、教職員にとっても業務負担が大きい時期であることから、最初の3日間を児童生徒及び教職員の心身の健康に配慮し、学校生活を「ゆるやかにスタート」させるための期間とします。

(1) 実施期間

令和8年1月15日(木)から19日(月)までの平日3日間

(2) 主な取組

- ① 原則、午前授業とすること
- ② 給食は、児童生徒からの人気メニューを提供している「元気モリモリウィーク」として実施すること
- ③ 支援が必要な児童生徒を対象とした教育相談等は午後の時間に設定すること
- ④ 児童生徒は給食終了後に退下、教職員は定時退下とすること
- ⑤ 既に学校行事を入れるなどしている場合には、柔軟に対応すること

ゆるやかに行こう

ゆる スタ



ゆるやかスタート・ウィーク

令和8年 1月15日(木)～19日(月)



夢や志をもち未来を拓く児童生徒の育成
青森市教育委員会